

今を未来に

学ぶことが楽しい学校 ☆ なかまとともに ワクワク やってみる



卒業証書授与式 3月19日(水)

令和6年度卒業証書授与式を行いました。なかまや家族への感謝の思いを伝えながら、自分らしく、卒業証書を立派に受け取りました。旅立ちの言葉では、6年間を振り返り、呼びかけや歌に思いを込めました。一人ひとりが、自分の持つ力をすべて出し切ろうとする感動的な卒業式でした。



お世話になった地域の方にもご出席いただき、卒業生の門出を祝っていただきました。今日の日に向け、一生懸命練習に取り組んできたことが伝わる、素晴らしい卒業式だったとお話していただきました。ありがとうございました。

校長より卒業生へ、今、大切にしたいことを贈る言葉として話しました。

ある一人の、問いと勇気ある行動が、社会を変えていったお話を紹介して、中学校へと巣立っていく皆さんへの贈る言葉とします。

今から70年前、1955年12月。このころのアメリカでは、まだ肌の色によってバスの座る場所が決められていました。白人の人はバスの前方の席に座り、黒人の人は後ろの席に座らなければなりません。中間の席は、どちらが座ってもいいことになっていましたが、白人が座れなくなると席を譲ることが当たり前になっていました。

ある日、ローザ・パークスさんがバスに乗りました。この人がローザさんです。仕事を終え、家に帰るところでした。後ろの席がいっぱいだったので、中間の席に座りました。

在校生を代表して出席した5年生も、呼びかけ、合唱、卒業生の入場の演奏と、立派にやり遂げました。

校旗のバトンが5年生へ手渡されました。



途中、白人の人がバスに乗ってきました。運転手が「席を白人に譲りなさい」とローザさんに言いました。周りの乗客は席を立てて譲りましたが、ローザさんは「同じ料金を払っているのに、なぜ座る権利がないの？」と問いかけ、席を譲ることを拒みました。そして逮捕されてしまいました。

しかし、「肌の色が違っていても、同じ人間ではないか。」ローザさんの不平等な社会に対する1つの問い、そして行動が、法の下での平等を求める人々の運動へと発展していきました。ローザさんを支えよう、バスに乗らないようにしようと呼びかけ、雨の日も暑い日も早い朝も遅い夜もたくさんの人が歩きました。また、この運動を支えようと、国じゅうから靴やコートやお金などが送られました。そして、1年近く過ぎた11月、最高裁判所は、バスの席を人種で分けることは違法だと判決を下しました。

この出来事から、2つのことを学びたいと思います。

1つは、問いを持つことで、社会は変えられるということです。

黒人の人が不平等に扱われる社会をおかしいと思いつつも、仕方がないことと受け入れることに対して、ローザさんは問いを持ち、席を立たないという行動に表したことが、アメリカ社会の人権問題を動かす大きな一歩となりました。今の私たちにとって、人種で差別することが間違っていることは誰もがわかることです。しかし、その時代に生き、多数の側にいると、それを当たり前と感じてしまうことがよくあります。これって、本当に平等なのかなと、常に自分の当たり前を疑ってみることが大切なのです。問いを持って、そのおかしさに気づける私たちでありたいと思います。

2つ目は、一人の勇気ある行動に続く人がいたから、社会を変える大きな力になったということです。社会にある偏見や差別と向き合うとき、一人の力は小さいかもしれませんが、一人ひとりが自分の立ち位置を確かめ、それはおかしいと意見を表明することで大きな力となります。これっておかしくない？と声を上げる仲間がいた時、続いていける2人目の自分でありたいと思います。

皆さんも、「すべての人が大事にされる学校」を実現するためには、どうしたらいいか、

「8つの目標」や「隠さず表に出す」ことが大切ではないかという新たな問いを立て、呼びかけてきました。過去の人権運動に目を向けたり、学校全体を考えたり、自分自身に矢印を向けたり、さまざまな問いを立てながら、仲間や先生方といっしょに、そして地域の方々などに学びながら取り組んできたのです。

日本においても、憲法 第十四条で、法の下での平等が約束されています。

「すべて国民は、法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」

しかし、私たちが生きるこの社会には、さまざまな人権課題があり、世界で、日本で、この保々で、すべての人が大事にされる社会の創造を目指し、取り組んでいるのです。

4月から、中学校での新しい生活が始まります。これからも、いろんな出来事に出会い、壁にぶつかることもあるでしょう。自分の当たり前前に問いを立て、さまざまな仲間と繋がり、すべての人が大事にされる学校、社会を目指し、よりよい未来へと切り拓いていくことを願います。

今を未来につなげて。

運動場での歓送は、6年生を送る会と同じ「さくらんぼ」の歌で、5年生、先生方、そして保護者の方の拍手の中、(きっと心の中では踊りながら)、晴れやかに歩いていきました。



最後に、6年生から、5年生へのエール、お世話になった方への感謝、卒業の喜びの聲が送り出す人たちへ伝えられました。

卒業生のみなさん、保護者の皆様、
ご卒業おめでとうございます。